

# 清末における漢語教材の西洋童話についての考察

— 『華英文義津逮』を中心として—

## The Western Fairy Tales in Chinese Textbooks in Late Qing Period

— based on 『The Chinese Language and How to Learn It』 —

張 逸芝

要旨 本稿はイギリス人の外交官ワルター・ケイン・ヒリアー（禧在明、Walter Caine Hillier,1849-1927）が1910年に著した『華英文義津逮』（THE CHINESE LANGUAGE AND HOW TO LEARN IT）について論じる。当著は、初級漢語教材であり、二つ著名な西洋童話の翻訳が含まれている。そこで、まず第一章においては『華英文義津逮』について詳述する。次に第二章においては、ヒリアーが、当時、中国の言語や文化に相応する独特な翻訳策略を行っていたことについて、他の漢語訳本と比較しながら論じる。そして第三章においては、ヒリアーの翻訳から読み取れる西洋の開拓的な精神や現代女性に対する新たな観念について言及する。

キーワード 『華英文義津逮』 初級漢語教材 禧在明 西洋童話

### 0. はじめに

明末以来、中国に來航する外国人は、主に宣教師であったが、それ以外に、外交官や商人、あるいは旅行者などがいた。そこで、当時の中国を詳しく知らない西洋人のために、中国に関する言語や文化、社会についての参考書籍を書く外国人が現れた。特に、漢語の学習者のために、中国の伝説や伝統的な物語、あるいは有名な文学作品などを選んで改編したテキストは注目するに値する。例えば、イギリス外交官、漢語家のトーマス・フランシス・ウェード（威妥瑪、Thomas Francis Wade,1818-1895、以下ウェード）が書いた『語言自邇集』（Yü Yen Tzu Erh Chi, a Progressive Course Designed to Assist the Student of Colloquial Chinese as Spoken in the Capital and the Metropolitan Department）は、漢語教材として有名だが、これは最初、当時の中国におけるイギリス大使館の漢語学習者を対象にしていた。しかも、中国の古典戯曲の『西廂記』を「秀才求婚」という白話小説に翻訳している。

そこで、本稿では、清末にイギリス外交官のワルター・ケイン・ヒリアー（禧在明、Walter Caine Hillier,1849-1927、以下ヒリアー）が著した『華英文義津逮』（The Chinese Language and How to Learn It）について主に焦点を当てることとなる。

すでに述べたように、『華英文義津逮』は漢語の初級学習者を対象とした教材であるが、注目に値するのは、この教材の中には、中国古代の志怪小説として有名な『聊齋志異』の13作が翻訳され、更に、有名な西洋童話の翻訳も2作盛り込まれているということである。これらのテキストは、極めて珍しく、かつ、他の中国語の版本よりも早い時期に出版されている。しかし、様々な原因により、当時の中国では、これらの童話が広く普及せず、また、学術界においても十分に注目されてこなかった。

だが、清末民初からは、「中国児童文学の発展を辿ると、極めて異例な歴史的様式が呈される。つまり、最初は、清末において、西洋から児童文学の編集や翻訳が伝わり、その後、中国の児童文学の理論と創作が構築することとなる。<sup>1)</sup>」といった状況へと到る。従って、『華英文義津逮』の中の二つの翻訳に注目することで、西洋の童話の翻訳が如何にして中国へ伝来したのかを知る一つの手がかりを得ることができる、と考えられる。そのため、以下、東洋と西洋の翻訳者が同じ作品に対してどのように翻訳したのかを観察し、また、これらの児童文学作品が如何に近代の中国社会に影響を与えたのかを考えてみたい。

## 1. 二つの西洋童話の改編および様々な版本について

イギリス人のヒリアーは外交官、漢学者であり、また、イギリスのインペリアル・カレッジ・ロンドン (King's College London) の漢文教授であった。香港に生まれ、1867年にイギリスの駐華使館の通訳者として中国へ訪れた。その後、漢務参贊、イギリス駐朝鮮総領事、清政府財政顧問など、様々な重要な職務を担当した。すでに述べたように、ヒリアーは1907年に漢語の初級学習者を対象とした『華英文義津逮』を編集したが、この教材の英語名は「The Chinese Language and How to Learn It: A Manual for Beginners」である。今日に至るまで何度も再版され、2017年に中国の北京大学出版社もこの漢語教材の価値を高く評価し再出版している。従って、この教材は今でも非常に高い支持を得ているといえる。そして、出版社だけでなく、中国の学術界においても『華英文義津逮』における言語学的な価値や、その中の短編小説について注目している<sup>2)</sup>。

しかし、ここでひとつ指摘したいことは、この教材は1910年の第二回の改訂の際、つまり第三回目の出版前に、ヒリアーは漢語の教育により力を注ぎたい一心で、「中文文本的練習」(Chinese Text of Exercises)の部分に対して、新たな内容を加えた、ということである。すなわち、第一版の『華英文義津逮』の「強化練習」(Progressive Exercises)の中の六つのテキストの順番を調整し、更に、漢語の物語を三作(つまり「報恩犬」(The Dog that Repaid a Kindness)、「神豆伝」(The Story of the Magic Bean)、「善悪報応伝」(A Story of the Recompense of Virtue and Wickedness))を追加した。これらのテキストは、すべて英語の訳文が付しており、漢語と英語を対照することができ、より学習しやすくなっている。

この「報恩犬」は『聊齋志異』の中の「義犬」という物語を改編したものである。「神豆伝」は、イギリスの童話である『ジャックと豆の木』(Jack and the Beanstalk)を翻訳したものである。「善悪報応伝」はフランス人の詩人シャルル・ペロー(Charles Perrault, 1628-1703)が1697年に発表した『寓意のある昔話、またはコント集〜がちょうおばさんの話』(Histoires ou contes du temps passé, avec des moralités : Contes de ma mère l'Oye)の中の「仙女たち」(Les Fées)に基づいて翻訳したものである。両者はいずれも世界的に有名な童話であり、子供から大人まで親しまれているため、ヒリアーは、初級の中国語学習者にも適した作品をわざわざ選出したと推測できる<sup>3)</sup>。

「神豆伝」の原著の『ジャックと豆の木』は、古来から人々の口によって伝えられてきたイギリスの民間物語である。今もなお、多くの西洋人に好まれている。この作品はいろいろな版本があるが、よく知られている物語としては、すなわち、貧しい家で生まれた男の子ジャックが、ある日、市場へいく途中、見知らぬ男と物々交換を行い、家の貴重な牛をその男にあげ、豆をもらってしまう。そして、家に帰ると、お母さんに叱責され、豆を庭に捨ててしまうが、この豆は不思議にも天高く成長し、空の巨人の家へと到るほどになった。そこで、ジャックは、この豆の木に三度も登り、巨人の財宝を奪い、さらには巨人を殺し、お母さんと裕福な生活を送るのである。この童話がかつて『グリム童話集』にも収められていたが、一番古い版本は1734年「The Story of Jack Spriggins and the Enchanted Bean」である。更に、1807年にベンジャミン・タバート<sup>4)</sup>(Benjamin Tabart, 1767-1833)が英語で書いて刊行した印刷書『Popular Fairy Tale』には、旧式的な童話を基にし、児童を対象としており、子供の教育にも配慮していた。当書は26作の童話を含んでおり、彩色の挿絵(彫刻様式)が26個もある。上で言及した「ジャックと豆の木」(Jack and the Bean-stalk)もそれに含まれる。当時『Popular Fairy Tale』の販売価格は6シリングであった。

当書の序言の中でベンジャミン・タバートは次のように述べた。

Of this fact, every tender mother, and every intelligent tutor, must be so sensible, that they will hail with satisfaction the appearance of a selection of the most interesting of these stories, in which an attempt is made to a level with the refined manners of the present age.<sup>5)</sup>

(実際、優しい母親や優れた先生は、十分な判断力を必要とされます。当書の選び抜いた良作は大いに喜んでいただけたと思います。一つ試んだことは、文字と情感をこの時代に適した、優雅で教養のあるものへと高めようとしたことです。)

この序言を見ると、1807年に印刷された「ジャックと豆の木」は当時の教育理念に合致していると判断する

ことができる。

18世紀の40年代に、ヘンリー・コール (Henry Cole, 1808-1882)<sup>6)</sup> はフィーリックス・サマーリー (Felix Summerly) というペンネームで、三つ伝統物語、つまり「赤ずきんちゃん」(Little Red Riding Hood)、「美女と野獣」(Beauty and the Beast)、「ジャックと豆の木」(Jack and the Beanstalk) を編集し、『The Home Treasure』という童話集を出版し、これらの童話の普及に努めた。また、1890年には、スコットランドの童話作家であるアンドリュー・ラング (Andrew Lang, 1844-1912) の『あかいろの童話集』(The Red Fairy Book) という童話集では「ジャックと豆の木」があり、これは今でもなお高い評価を得て、読まれ続けている。現在において最も権威のある版本は、イギリスの民俗学者ジョセフ・ジェイコブス (Joseph Jacobs, 1854-1916) が著した『イギリス昔話集』(English Fairy Tales) 中の「ジャックと豆の木」であり、これは1890年9月に出版された。

実は、「ジャックと豆の木」がいつ中国へ伝わったかについては、依然として明らかにされていない。だが、1933年10月に上海商務印書館が出版した『小学生文庫』という叢書の「童話類」に収められている「甲克与豆杆」は、当時の上海商務印書館の『少年』という雑誌の編集者の一人である殷佩斯が翻訳した版本であり、留意する必要がある。当書の文体に注目すると、殷佩斯の「甲克与豆杆」はジョセフ・ジェイコブスの版本から翻訳したと推測することができる。これは中国人が「ジャックと豆の木」を翻訳した最初の版本であったが、「神豆伝」よりも20年経ってから翻訳されているのである。

また、「善悪報応伝」は1697年フランスの詩人のシャルル・ペロー (Charles Perrault, 1628-1703) が著した世界的に有名な童話「仙女たち」という物語である。お母さんとお姉さんの虐待をずっと受けていた少女が、ある日、仙女から化けたおばあちゃんの手助けをした。すると最後に仙女から恩返しを受けて、王子と結婚する。情けは人の為ならず、勧善懲悪といった思想を賛美する物語である。19世紀初頭に商務印書館に務めていた編集者の孫毓修はシャルル・ペローの童話を翻訳紹介した。1928年に中国の開明書店が有名な詩人の戴望舒が翻訳した『鵝媽媽的故事』(『がちょうおばさんの話』) を出版し、その中に「仙女たち」も含まれている。しかし、この本の初めに書かれている翻訳者の言葉によると、これはロシアの訳本から翻訳したということが看取できる<sup>7)</sup>。この『鵝媽媽的故事』は中国人が初めて翻訳した作品であり、今もなお広く読まれている。従って、『華英文義津逮』の「善悪報応伝」は改編した部分があるが、この『鵝媽媽的故事』が中国の児童文学のパイオニアであると言える。

『華英文義津逮』中の「神豆伝」と「善悪報応伝」の物語は、西洋の漢語学者が書いた漢語教材という特殊な経路を経て、中国に伝わった。世界的に有名な西洋童話であったが、両作品はいずれも部分的に改編された。なぜなら、当時の漢語学習者のために、適宜に改編し、西洋の名作は見事に中国の社会や文化との迎合が可能となったからである。このような工夫は正に時代を先取った、先進的なものであり、今後の中国における児童文学に対しても、大きな影響を与えたことは疑いない<sup>8)</sup>。

## 2. 「漢化」の翻訳策略

清末民初に中国で活躍した翻訳者は、時代がもたらす様々な影響を受けながら翻訳を進めていった。こうした中で、翻訳者は西洋の物語に対し、当時の中国の言葉や文化に相応する巧妙な「漢化」という翻訳策略を用いた。『華英文義津逮』からもその趨勢を看取することができる。当書の訳者のヒリアーは中国語に長けていた。それ故、イギリスの著名な外交官であり、また漢学者でもあるウェードが北京語の教科書『語言自邇集』を編集した際に、ヒリアーはその編集作業に関わり、ウェードから高く評価された。『華英文義津逮』を見ると、漢語学習者のレベルを意識した編集がなされているのが分かり、ヒリアーが如何にこのテキストに心血を注いだのかが察し得る。

「神豆伝」と「善悪報応伝」の訳文の各センテンスは、いずれも短く、内容は明瞭で、流れるような文体となっている。漢語の教材として現存するヒリアーの「神豆伝」と現在通用されているジョセフ・ジェイコブスの版本を比較すると、前者はきわめて簡潔なものであることが分かる。テキストにおける物語では、本来は主人公

が三度危険な目に遭うところを、一回に纏めている。同時に、「善悪報応伝」も部分的に削除されている。これに対する原因は序説から見て取れる。要するに、序説で訳者は、この教材の対象となる読者は「中国に來た軍人や宣教師、および中国との貿易を望む若い商人」<sup>9)</sup>であると言及している。

ここで注目されたいことは、ヒリアーが童話の作品の背景と内容を全て「漢化」させているということである。要するに、彼は近代中国のエートスに目を向けて、訳文は白話文のように改編するだけでなく、物語も中国の伝統小説の表現方法を模倣した。例えば、「神豆伝」は長編小説の様式を採用し、二つの章節に分けて物語を語っている箇所が多い。第一話は、主人公が豆の木を登り、巨人の奥様にそこに居座りたいと願う。そして第二話は、主人公は金の鶏を盗んでいる時に、巨人に発見され、巨人を殺す話である。テキストの構造から見れば、中国の伝統小説のような翻訳形式をとっているのである。

「神豆」や「善悪」、あるいは「報応」といった表現、さらには題目までもが当時の中国白話を真似ている。また、ヒリアーは「ジャックと豆の木」の中で、一貫して用いられている道具、すなわち、「豆」を用いて、「神豆伝」という題目に書き直した。それとともに、「善悪有報」という伝統事理を鑑に、そして「仙女」を「善悪報応伝」に変えた。この点から、訳者が「伝」という中国の古典的な歴史小説の構造や表現手法、さらには叙事について熟知していることが分かる。しかも、当時流行っていた口語体を用いている。以下の引用を見るとそれが判然とする。

那屠戸問他：“你這個牛是往那里趕？”借哥答說：“我趕到市上去賣去。”他一面說，一面就瞅着那屠戸手里拿這些東西：不圓、不方、不藍、不綠。就問他：“你手里拿的是甚麼東西？”那屠戸告訴他：“這是很希罕的東西，很值錢，你若要，我就把這一口袋東西，換你那個牛。”<sup>10)</sup>

(その屠殺者は「牛をどこへやるんだ」と借哥に聞きました。借哥は「市場に売るつもりです」と答えました。そう言いながら、屠殺者の手にある物を見ていました。丸くも、四角くもない、また、青色でも緑色でもないものです。「何を持っているのですか」借哥はこう聞きました。すると屠殺者は「とても珍しい物だ、高いぜ、欲しいなら、これ一袋とお前の牛を交換しよう」と言いました)

文体は日常会話のようで、簡潔明解であり、かつ面白く書かれている。特に上の引用の最後の“你若要，我就把這一口袋東西，換你那個牛”は、正に当時の庶民が話していたような表現で、臨場感があり、この場面が如何なるものであるのかを容易に連想することができる。また、“借哥”とは「神豆伝」の主人公を指し、「借りのお兄さん」と言う意味である。しかも、この“借哥”は中国語で発音すると、英語の「ジャック」の音と似ているため、上手な翻訳であるといえる。同じ作品でも、殷佩斯の翻訳である「甲克与豆杆」は、主人公の名前を「甲克」にしているので、「借哥」の方が中国的なニュアンスを含んでいるといえる。

さらに、人物の名前や外見だけでなく、生活用品に至るまで、中国的な様式が用いられている点も興味深い。具体的に例を挙げてみると、「神豆伝」において、豆を交換した見知らぬ男子は、「屠夫」(屠殺者)と呼ばれている。また、巨人は「子供を食べるのが好き」な「暴悪な長身男」といった翻訳が施されている。「善悪報応伝」の王子も「こちら王爺の大公」(こちら親王様の令息)、つまり「中国古代の貴族の息子」と翻訳された。西洋文化の中に愛情と財福を象徴するバラや真珠、ダイヤモンドは中国式に「宝珠」と翻訳されている。

また、文学作品の中で、一番重要なのは人間像であるといえるが、この人間像から文化体系の特徴を推測することができる。ヒリアーが翻訳の過程において、人間像、特に人々の性格、行動、心理活動などを浮き彫りにさせる工夫を凝らしている。そこで、以下、「善悪報応伝」の中から少し引用してみたい。これは、少女が水を汲んだ後、仙女を手伝ったため、家に帰るのが遅くなってしまい、お母さんに怒られる場面である。

小姑娘看見那老太太忽然變成雲彩，順着風飄了去，心里很詫異，打完了水，一辺挑着走，一辺納悶。回到家裏的時候，他母親就罵他說：“你這個懶了頭！為甚麼在道儿上耽誤了這半天？我知道你是和甚麼不中用的浪小子，在道儿上說閑話！”這姑娘本來是一個腩腆人，一聽他媽媽說這個樣的丑話，心里就跳起來了，說：“我並沒有！”<sup>10)</sup>

(少女は、老婦人が急に雲のような形になり、風と共にふわっと行ってしまったのを目にしました。とても怪しいと思いましたが、井戸から水を汲み上げ、訝しげながらも歩いて家に帰りました。家に着くと、

母親が少女を罵りました。「もたもたして、どうしてこんなに遅いわけ、きつとろくでもない男と話でもしてたんでしょ」少女はもともと恥ずかしがり屋でしたが、母親からこのように言われて、おもわず言い返しました。「そんなことないわ」)

これと戴望舒が翻訳した版本とを比較してみたい。すなわち、

這幼女回到家中，她的母親責罰她回來得那麼遲

(少女が家に帰ると、母親が帰りが遅くなったと叱った)<sup>7)</sup>

である。両者を比べてみると、ヒリアーの版本は細部まで気を配り、想像力を最大限に活用して、生き生きとした描写をしているのが分かる。全ての西洋童話の人物は、ただ単に、中国の伝統的な人々に置き換えられたのではなく、物語の面白さも追及したのである。また、「神豆伝」の最後には以下のような記述がある。

以後の話不用細説。那神鷄，天天給借哥下了金蛋，所以借哥就快發了大財。後來娶了一個大官的姑娘，生了五個兒子。那五個兒子，長大了，也娶了媳婦。沒一個兒子，又生了五個兒子，另外還有好些個姑娘，他們三輩子都是喜喜歡歡的，在一個大院子里住。……<sup>10)</sup>

(その後のお話は言うまでもありません。あの神の鶏は、毎日借哥に金の卵を産みました。なので借哥はすぐにお金持ちになりました。その後、高官のお嬢様と結婚し、男の子が五人も生まれました。その五人の男の子が大人になり、お嫁を貰い、また五人の男の子が生まれました。女の子も何人かいました。彼らは、三世代に渡ってずっと幸せに一つの広い家に住みました)

主人公が裕福になって、結婚し、子孫が多く、家が栄えていく、といったことは、中国の昔話の理想的な結末である。この点から見ると、訳者が如何に現地の文化や習俗などを受け入れているのかが分かる。なお、殷佩斯の訳文ではより口語的になっており、面白みを感じる。

甲克把金琴給他的母親看，並且因為賣去那些金蛋，甲克和他的母親變成很富的富人。他娶了一位公主，他們一直享着安樂的生活。<sup>11)</sup>

(甲克(ジャック)は金の琴をお母さんに見せました。そして、金の卵を売り、甲克と母親はお金持ちになりました。甲克はお姫様を嫁に貰い、ずっとよい生活を楽しみました)

また、ヒリアーは、さらに、俗語や俚語や四字熟語などの運用にも留意している。例えば、「善惡報応伝」の中に書かれている「照樣兒」(そのまま)、「可怜一个挨餓的老婆子」(飢えて可哀想なおばあちゃん)、「和和氣氣的伺候」(和かに仕える)、「不中用的浪小子」(無用な野郎)である。

「神豆伝」に書かれている「没出息的孩子」(意気地なしの子供)、「媳婦兒」(お嫁さん)、「相公」(若旦那)などの様々な呼び方、そして、「一五一十」(一部始終)といった四字熟語も巧みな翻訳である。更にもう少し例を挙げてみると、「看官你猜」(あなた当ててごらんなさい)、「看官您想」(あなたお考えください)なども興味深い。短い言葉を用いて、講釈師が読者に語りかけるような感覚が生まれる。

以下の引用は「善惡報応伝」からのものである。

看管您猜，這一位相公是誰？不是別人，是本處王爺的大公子……往下的話不用細說了，天下都是一個理，一個好看的相公，一個秀美的小姐，這不是現成的佳偶麼？<sup>10)</sup>

(当てて見て下さい、この男は誰でしょう。彼は他でもなく、親王様の息子です。これから後の話は詳しく説明する必要がありませんね。世の中どこでも同じです。カッコいい男性と、美しい女性、まさにお似合いですね)

原著に忠実に従って直接的な翻訳を行った殷佩斯の訳と比較すると、ヒリアーの方はより近代的な訳であると言える。特に「神豆伝」の最後の部分では、それが顕著である。

那個鷄下了好幾萬金蛋之後，就死了。借哥因為他愛這個鷄，不肯把他埋在地里……擱在玻璃匣子里頭，今還在借哥後輩家里存着。誰不信，誰可以上那房子去看，或者有人說，借哥不是中國人。敢問他們怎麼知道？<sup>10)</sup>

(鶏は、何万個もの金の卵を産んだ後、死んでしまいました。借哥は、この鶏をととても愛していたので、土に埋めたくありませんでした。そこでガラスの箱に入れて置きました。この鶏は、今も借哥の後代の家

に保存してあります。もし私の話を信じないのであれば、その家へ見に行ってください。また、ある人は借哥は中国人ではないと言うかもしれませんが、そんな根拠はどこにあると言うのでしょうか)

このヒリアーの翻訳は、文学に対する翻訳の最高の境地は「化」と感じさせられる。翻訳を行う際、言語や文化的な習慣の差異を意識しすぎて、迎合に走りすぎるのではなく、原著の味わいを留める技術が求められる。中国人の訳文と比べると、ヒリアーは、西洋童話に対して大幅に「漢化」させているが、原著の魅力を残めることに見事成功させているといえる。

### 3. 西洋観念の浸透

既に述べたように、『華英文義津逮』は、西洋童話を「中国式」に改編したものだが、近代における西洋的な観念も含まれている。特に、主人公の心理的な活動には留意せざるを得ない。ルネッサンス時代以降、人文主義の提案や啓蒙思想の発展、さらには資本主義などが生まれ、このような時代の動きの中で、西洋人は徐々に個人的な価値を重んじるようになり、さらなる自由を求め、虚無的な感覚に違和感を覚えるようになっていった。今世の幸せのために一生懸命に生きるといった価値観が重要となったのである。自由や自立や勤勉などといった言葉が社会全体に浸透することとなった。その一つの証拠として、「神豆伝」と「善悪報応伝」の文学作品が挙げられるといえる。

特に「神豆伝」では、「借哥」は豆の木に沿って空にある新たな世界に至るといえることは、困窮な家庭とお母さんの境遇に面した時に見つけた一縷の望みである。彼は巨人の家から新しい財源を盗むが、このことは、ロビンソンの物語のように自らの力で開拓を行い、冒険することの大切さを提示しているといえる。確かに、ヒリアーが描いた「借哥」は極めて平凡で、食いしん坊の怠け者だが、苦境の中で見事にチャンスを手にしたのである。したがって、訳者がこのような童話を選んで翻訳したことを考えると、その改編は資本主義が成功しえる要素、つまり、冒険的な精神や勇気などを提唱していると推測することができる。

また、「善悪報応伝」の中で、少女は、お母さんとお姉さんに追い出され、森に迷い込むが、この時の少女の心境をヒリアーは見事に表現している。以下、引用を見られたい。

她在樹林子里等了好久，不見她媽媽來，心就定了一點，想：我既不敢回家去，我得想法子找甚麼別的人家住。可惜我是姑娘，我若是一個爺們那就好辦，我只能找甚麼人家，以做菜的本事換喫的穿的就是了。<sup>10)</sup>

(彼女は森の中で長らく待っていたが、お母さんが追いかけて来なかったため、少し安心し、心の中でこう思った。「もう家に戻りたくないから、ほかの家に泊まる方法を考えなくちゃ。女の子だから困るわ、もし男ならいいけど。とにかく料理の腕前をいかして、生き延びていかなくちゃ」)

少女はとても自立的で、伝統的な中国女性とは完全に異なっている。一見、中国化した物語のようだが、実は、西洋の女性があるべき理想像を描いているのである。当時の中国の女性は、纏足という習慣があり、将来は男性に頼り、自立の意識さえなかった。それに対して、19世紀の西洋諸国は近代工業文明の発展と共に、大衆に参政権を与え、民主化改革が進んでいった。このような環境の中で、女性たちは自分自身の地位を意識し、男性と同等の地位を得るために努力していた。このように女性自らが意識して、自分らしい生き方を求める思想は、当時の中国社会においては非常に先進的で、重視すべきであったといえる。

### 4. 結びにかえて

中国の児童文学は特別な歴史的な背景を基に形成された。近代において、海外から児童文学作品が中国へ入り、同時に、このような作品と中国人の作家による文学作品が相互に関係しあって、中国の児童文学が形成されていった。このような西洋の經典の童話に対する翻訳書は重要な役割を果たしたのである。特に、本稿で論じてきたヒリアーの『華英文義津逮』の中の二つ西洋童話の翻訳は、極めて価値のある作品であると見なすことができる。

また、ヒリアーは外交官であったため、この観点から見ると、この教材は当時の西洋人の中国に対する考えを知る貴重な手がかりとなるといえる。特に、経済や政治に対する考えである。ある意味『華英文義津逮』は

中国の植民時代の副産物としても見なしえるのだが、いずれにしても、この翻訳書は、訳者が東洋と西洋の人たちの生活、観念、文化などの違いや、物語の背景、さらには物語の中で出現する小さな道具に至るまで、中国の社会環境に溶け込ませるための努力を惜しまなかった。翻訳者が東西の文学上の形式を意識しながら、言語形態を整えたことは、やはり特筆に値する。このような翻訳上の工夫を惜しまず、的確に「漢化」したことによって、西洋文学が中国に広まり、中国本土の児童文学の新たな発展にも大きな影響を与えたと考えることができる。

#### 注釈

- 1) 宋莉華 (2009) 「從晚清到“五四”：传教士与中国現代児童文学的萌蘗」『文学遺産』第11期。
- 2) これに関する研究としては、以下の研究者の論考が注目に値する。廖一忠 (1995) 『義和団大辞典』中国社会科学出版社、黄光域 (1981) 『近代来華外国人名辞典』中国社会科学出版社、孫遜、林彬暉 (2007) 「西人所編漢語教材与中国古代小説——以英人禧在明『中文学習指南』為例」『文学遺産』第7期、周磊 (2011) 「禧在明『華英文義津逮』研究」上海師範大学修士論文。
- 3) 筆者が参考するのは『華英文義津逮』の1907年の第一版、1910年の第二版（修訂版）、1914年の改訂版、及び1916年の第四版である。
- 4) ベンジャミン・タバート (Benjamin Tabart, 1767-1833)、イギリス人でロンドンの書店を経営し、同時に出版業を営んだ。
- 5) ベンジャミン・タバート (Benjamin Tabart, 1767-1833)、『Popular Fairy Tale』London: Published by Sir Richard Phillips and co, 1807, p.3.
- 6) ヘンリー・コール (Henry Cole, 1808-1882)。ビクトリア時代におけるイギリスの現代主義者。19世紀イギリスの教育、商務、郵便のシステムを促進した。1851年にロンドンで行われた国際工業展覧会の発起人の一人であり、また、世界で最初に商用クリスマスカードを発明した人物である。
- 7) 戴望舒 (1995) 『鵝媽媽的故事・前言』少年兒童出版社。
- 8) 筆者の『孫毓修評伝』に対する調査によると、中国において最も古い児童のための読み物は孫毓修が主編する『童話』叢書である。その中にこの二つの童話は収録されていない。
- 9) ワルター・ケイン・ヒリアー (1910) 『華英文義津逮』、London: Kegan Paul, Trench, Trübner.
- 10) ワルター・ケイン・ヒリアーの訳文には句読点や括弧などが無いが、読みやすくするために、筆者が加筆した。
- 11) 殷佩斯 (1933)、『英国童話』、商務印書館。

#### 参考文献

- 戴望舒 (1955) 『鵝媽媽的故事』上海少年儿童出版社。  
黄光域 (1981) 『近代来華外国人名辞典』中国社会科学出版社。  
廖一忠 (1995) 『義和団大辞典』中国社会科学出版社。  
宋莉華 (2009) 「從晚清到“五四”：传教士与中国現代児童文学的萌蘗」『文学遺産』第11期。  
孫遜、林彬暉 (2007) 「西人所編漢語教材与中国古代小説——以英人禧在明『中文学習指南』為例」『文学遺産』第7期。  
殷佩斯 (1933) 『英国童話』商務印書館。  
禧在明 (1910) 『華英文義津逮』London: Kegan Paul, Trench, Trübner.  
周磊 (2011) 「禧在明『華英文義津逮』研究」上海師範大学修士論文。  
Benjamin Tabart (1807) 『Popular Fairy Tale』London: Published by Sir Richard Phillips and co.  
Joseph Jacobs (1902) 『English Fairy Tale』New York: G.P. Putnam' Sons.